



コラム①

コロナ禍、つながりはどう変化したのか

令和2年度の調査は、まさにコロナ禍に実施されました。人との接触を減らすことは感染予防のためには重要ですが、他者とのつながりを築くという点では大きな障壁になります。平成25年度と令和2年度の調査結果を見比べると、つながりの面で変化が見られています。

例えば、地域の人との付き合いがない人の割合は、高齢世代ではほとんど変化がありませんが、若い世代ほどその割合が増加していることが分かります（12ページ）。同様に、地域の中で他世代との交流の機会がない人の割合も、若い世代ほど増加しています（14ページ）。

では、若い世代はコロナ禍でつながりを失っているかというところでもありません。ある研究では、コロナ禍では、高齢世代ほど社会的孤立者（つながりが著しく少ない状態の者）が増加したと報告しています（Murayama et al., 2021）。

若い世代は、SNS等のオンラインのつながりを豊富に持っています。そのため、コロナ禍で対面を基本とするつながりが少なくなってもオンラインによってつながりを補完できていたのです。一方、高齢世代は、若い世代に比べるとオンラインのつながりに慣れていない人が多く、かつ、対面の交流はコロナ禍以前ほど活発にはできないという状況から、社会的孤立者が増えたと考えられます。

オンラインのつながり、職場のつながり、地域のつながりなど、世代によって「持ちやすいつながり」があります。つながりを一括りで捉えるのではなく、各世代の特徴を十分に把握し、それぞれの区市町村でどういったつながりを活かし、強化していくのかを考えることが重要です。

Murayama H, Okubo R, Tabuchi T. Increase in social isolation during the COVID-19 pandemic and its association with mental health: Findings from the JACSIS 2020 study. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2021; 18(16): 8238.